



会礼の話（6月）

6月も半分が終わりました。気が付けば、夏休みまであと1か月余りとなりました。4月に決めためあてや、思い描いたなりたい自分の姿は達成できそうでしょうか。あと1か月、しっかりと意識していけるといいですね。



さて、皆さん、この字は何て読みますか。「梅雨」「つゆ」や「ばいう」と読みます。

梅雨とは、ちょうど今のような、雨がよく降り晴れの日が少ない時期のことです。雨季とも呼ばれ、5月下旬頃から7月上旬頃まで続きます。北海道を除いた日本だけでなく、朝鮮半島や中国南部でも起こる気象現象です。梅雨の始まりは「梅雨入り」、梅雨の終わりは「梅雨明け」と言い、どちらも何月何日と決まっているわけではありません。前日や当日、その後の1週間の予報から気象庁が判断し、ニュースやテレビを通じて私たちに伝えられます。梅雨の漢字は江戸時代に、中国から日本に伝わったといわれています。「梅」と「雨」の漢字が使われている理由は諸説ありますが、中国で梅の実が熟す初夏の時期と重なることから、梅の字になった説が有力なようです。

この梅雨の時期、皆さんは好きですか？毎日雨が降って登下校は大変だし外で遊べない。じめじめして洗濯物が乾かない。じつは、校長先生もこの梅雨の時期があまり好きではありませんでした。しかし、この「梅雨」はなくてはならないものです。例えば、お米作り。お米を作るには、とてもたくさんの水が必要です。梅雨は田んぼにたくさんの水を与えてくれます。同じように、畑で作られる野菜のための水になります。また、普段わたしたちが飲んでる水も、梅雨の時期に雨が降らなければ足りなくなってしまうます。私たち人間だけでなく、草花や虫、色々な生き物にとっても、梅雨の雨は恵みの雨になっています。

このように、自分の目から見て感じられることがすべてではなく、ちょっと見方を変えたり違う立場で考えてみたりすると、新しい発見や違う感じ方・考え方に気づくことがあります。一つの物事でも、色々な角度から眺めてみるとその物事のことがより深く分かります。「相手の気持ちになって」と言われるのも同じです。

「相手がどう思うかな」「こうすればきっと喜んでくれるだろうな」と皆さん一人一人が考えて行動すれば、この笠原小学校は、今よりもっともっと素晴らしい学校になると思います。梅雨の晴れ間のように、ピカピカと輝く、そんな笠原小になるといいですね。

